公益社団法人日本語教育学会 2023 年度事業報告
2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

≪重点項目≫

①コロナ禍の下、様々な媒体を通じて研究や実践を発信してきた経験を活かし、また社会的研究課題・社会的課題の位置づけのために構築した「日本語教育学の構造化」（2022 年度日本語教育学の構造化ワーキンググループ報告書）を踏まえ、研究や実践のさらなる質的な向上を目指し、具体的に検討する。

→大修館書店発案、日本語教育学会監修『現代日本語教育ハンドブック』（仮称） について相談を受けて、企画案の相談に乗り、編者や執筆者の推薦を行った。特に企画案の相談時に、日本語教育学の構造化（特に「日本語教育学の俯瞰図 ― 実践と研究のダイナミクス」）を参照した。

②日本語教育および本学会の研究・実践活動の成果と社会的役割について、日本語教育関係者及び関心をもつより広い層に向けて発信するために、継続的に、対外的発信力、広報力の強化を図るとともに、2022 年度に改修を行った本学会ウェブサイトについて、改修結果の検証を行う。

→発信のために「むすぶ」サイトに「＜私＞の日本語教育」シリーズを掲載した（2021 年度開始、今年度は１件）。学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、facebook、Youtube を有効活用した広報活動を展開した。年度内に、ウェブサイトの管理・運用状況の点検を行う予定で、月次メンテナンス報告を受けて運営・管理を継続したが、具体的な検証は実施できなかったため 2024 年度に行う。

③第二次中期計画の中間評価を踏まえ、事業を精査し、持続可能性の観点から、日本語教育を担う人材の育成等において、学会内外の連携による事業の実施を推進する。

→今年度も⑴世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会（国際連携事業、2020 年度から）、⑵「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」（国際連携事業、2019 年度から）、⑶言語系学会連合の公開シンポジウムを実施・開催した。

1. 研究・研修
   (1) 大会事業（所掌：大会委員会）
   春季・秋季の各大会を次の通り行った。
      ｱ. 春季大会
         (ｱ) 開催日：2023 年 5 月 27 日（土）、5 月 28 日（日）
         (ｲ) 会場：オンライン開催
         (ｳ) 参加費：＜事前登録＞会員 3,500 円（学生証あり 2,000 円）
         ＜当日申込＞一律 5,000 円
         (ｴ) 参加者数：1,000 名を見込んだところ、849 名の参加があった。
      ｲ. 秋季大会
         (ｱ) 開催日：2023 年 11 月 25 日（土）、11 月 26 日（日）
         (ｲ) 会場：山形テルサ
         (ｳ) 参加費：＜事前登録＞会員 3,500 円（学生証あり 2,000 円）
         ＜当日申込＞一律 5,000 円
         (ｴ) 参加者数：500 名を見込んだところ、576 名の参加があった。

ｳ.　大会委員会会議
大会委員会会議を 4 月 22 日、8 月 17 日、10 月 29 日、2 月 11 日に開催した。

(2) 支部活動事業（所掌：支部活動委員会）
ｱ.　支部集会
支部集会を次の通り行った。
(ｱ) 第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）
2023 年 7 月 8 日（土）、熊本学園大学（熊本県熊本市）で開催。「研究発表（口頭 3 件・ポスター 3 件)」、「交流ひろば 7 件」、講演、参加者数 100 名を見込んだところ、79 名の参加があった。
(ｲ) 第 2 回支部集会（北海道支部）
2023 年 7 月 15 日（土）、北海道大学（北海道札幌市）で開催。「研究発表（ポスターのみ 4 件)」「交流ひろば 5 件」、その他委員企画、参加者数 50 名を見込んだところ、40 名の参加があった。
(ｳ) 第 3 回支部集会（中国支部）
2024 年 2 月 3 日、ひろしま国際プラザ（広島県東広島市）で開催。「研究発表（口頭発表 1 件)、「交流ひろば 6 件」、パネルセッション、参加者数 100 名を見込んだところ、44 名の参加があった。
(ｴ) 第 4 回支部集会（関西支部）
2024 年 3 月 16 日（土）、オンライン開催、「研究発表（口頭発表 4 件)」、「交流ひろば 1 件」、講演・パネルディスカッション、参加者数 100 名を見込んだところ、53 名の参加があった。
ｲ.　支部活動
支部活動を次の通り行った。
(ｱ) 関東支部活動
2023 年 8 月 20 日（日）、オンライン開催。「再考　多文化共生の「コーディネーター」開催報告というテーマのもと、講演を行った。参加者数は未設定であったが、44 名の参加者があった。
(ｲ) 四国支部活動
a.　2023 年 6 月 14 日（日）、オンライン開催。「2023 年度春季大会参加報告会」を実施。参加者数 20 名を見込んだところ、30 名の参加者があった。
b.　2023 年 9 月 24 日（日）、香川大学（香川県高松市）で開催し、オンラインでも開催をした（ハイブリッド開催)。「これからの日本語教師・支援者に求められるものというテーマで講演を行った。参加者数 100 名を見込んだところ、62 名参加があった。
c.　2023 年 12 月 15 日（金）、オンライン開催、「2023 年度秋季大会参加報告会」を行った。参加者数 20 名を見込んだところ 32 名の参加があった。
(ｳ) 中部支部活動
2023 年 10 月 7 日（土）、愛知淑徳大学（愛知県名古屋市）で開催。「「日本語教育プログラム」像を描いてみよう」というテーマのもと講演とワークショップを行った。参加者数 50 名を見込んだところ、22 名の参加があった。
(ｴ) 秋季大会
2023 年 11 月 25 日（土）に「交流ひろば」、11 月 26 日（日）に「地域発信企画」を企画・実施（秋季大会開催地が山形県山形市のため東北支部

所掌であるが、大会は委員会全体での協力体制とする)。参加者数 100 名を見込むが、参加者数は特定できず。

(ｵ) 東北支部活動
2023 年 12 月 9 日（土）、オンライン開催、「専門人材として地域日本語教育に関わる」というテーマのもと講演が行われ、続いて「対話のひろば」を行った。参加者数 50 名を見込んだところ 29 名の参加があった。

(ｶ) 北陸支部活動
2023 年 12 月 16 日（土）、オンライン開催、「パーソナリティを協働学習にど う活かせるか」というテーマのもと講演を行った。40 名の参加があった。

(ｷ) 支部活動委員会会議
支部活動委員会を会議を 5 月 27 日と 12 月 2 日に開催した。

(3) チャレンジ支援事業（所掌：チャレンジ支援委員会）
年齢や経験、業績にかかわらず、新規に日本語教育関連の研究や実践に取り組む人に対する支援・育成につき以下の事業を行った。

ｱ. ＜はじめて系＞日本語教育初心者向けの催し
(ｱ) 大会会場で、はじめて大会に参加する方に向け、以下を実施した。
a. 「わかば・コンシェルジュ」(秋季大会のみ)
※時間内自由入退場制のため参加者数は特定できず。
b. オリエンテーション「わかばさんいらっしゃい」
※春季大会は、事前動画閲覧 276 回、当日の Zoom 参加者 11 名。秋季大会は、参加者 17 名。
(ｲ) 年 2 回（6 月 25 日、12 月 25 日）の大会発表応募締切にあわせて、はじめて発表応募をする方に向け、オンラインで以下の各イベントを実施した。
a. 研究や発表のアイディアを話し合う「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1 発表のタネ探し」、 2024 年 3 月 10 日（日）、参加者数 13 名。
b. 実際の発表応募書類作成に向けての「おせっかい侍の発表応募支援 STEP２セミナー・個別相談」、2023 年 9 月 2 日（土）、参加者 7 名。
c. 発表応募要旨に事前アドバイスをする「おせっかい侍の発表応募支援 STEP３発表応募原稿チェック」(メールによる書面やりとり)、2023 年 6 月 1 日（木）～15 日（木）参加者 1 名。

ｲ. ＜これから系＞日本語教育関係者にとっての新情報を提供する催しを企画・実施した。
(ｱ) 明日のための学びの場（通称：あしたば)「メタバースで広がる日本語教育の可能性」をオンラインで実施した。2023 年 8 月 27 日（日）、申込者 42 名。

ｳ. ＜キャリア系＞日本語教育をキャリアとして考える方に向けた催しを実施した。
(ｱ) 春季大会で、先輩との対話の場「ぷらさ da わかば」をオンラインで実施した。参加者 8 名。
(ｲ) 「キャリアパスフォーラム第 4 弾―海外の日本語教育現場（ヨーロッパ編)」をオンラインで実施した。2024 年 2 月 18 日（日）、参加者数 66 名。

ｴ. チャレンジ支援委員会会議
チャレンジ支援委員会会議を、5 月 9 日、6 月 27 日、8 月 1 日、10 月 19

日、11 月 25 日、2 月 9 日に開催した。

(4) 表彰事業（所掌：表彰委員会・授賞候補選考委員会・学会誌委員会・大会委員会）

ｱ. 2022 年度各賞の授与

(ｱ) 日本語教育学会賞を池田玲子氏に、奨励賞を南浦涼介氏に、功労賞を故・奥田純子氏に授与した。

(ｲ) 『日本語教育』論文賞を以下の論文に授与した。
「人称表現における複数性と不定性—「人々」の誤用をめぐって—」（執筆：牧彩花氏、掲載号：181 号）

(ｳ) 学会活動貢献賞の授与を以下の会員に授与した。
小柳かおる氏、田尻英三氏

(ｴ) 大会若手優秀発表賞を以下の会員に授与した。

a. 2023 年度春季大会

(a) 岩下智彦氏（口頭発表「自然言語処理を用いた例文生成とその妥当性 —日本語教師の支援を目的とした BERT・T5 を用いた文生成シミュレーション—」）

(b) 俵加奈子氏（ポスター発表「日本語教師養成講座の教育実習での実習生の意識変容における講師の役割」）

ｲ. 2023 年度各賞の選考

(ｱ) 第 1 回理事会および第 3 回理事会で、各賞授賞候補選考委員会委員を承認した。

(ｲ) 学会賞・奨励賞・功労賞表彰規程第 7 条に規定された推薦できる会員（理事、監事、代議員、すべての委員、授賞の翌年度から 4 年間の学会賞・奨励賞・功労賞の授賞者）に授賞候補推薦依頼を 9 月 1 日に行った。

(ｳ) 第 5 回常任理事会で、『日本語教育』論文賞の第 1 選考部会部会員を承認した。

(ｴ) 第 3 回常任理事会で、大会若手優秀発表賞の選考部会部会員を承認した。

(ｵ) 12 月 25 日の締切までに推薦を受けた候補者について 2 月 6 日の授賞候補選考委員会で審議し、学会賞授賞候補者 1 名、奨励賞授賞候補者 1 名、功労賞授賞候補者 1 名を選考した。第 5 回理事会で、学会賞受賞者として浜田麻里氏、奨励賞受賞者として櫻井千穂氏、功労賞受賞者として遠藤織枝氏を決定した。

(ｶ) 12 月に選考部会による論文賞の第 1 次選考を行い、推薦を受けた論文 4 編について、2 月 6 日の授賞候補選考委員会で審議し、1 編の論文を選考した。第 5 回理事会で、受賞論文として以下の 1 編の論文を決定した。
「外国人散住地域における外国人住民対応ローカル・ガバナンス構造の検討—ライフキャリア形成を支える地域日本語教育の視点から—」〔調査報告〕（執筆：家根橋伸子氏・山本晋也氏、掲載号： 185 号）

(ｷ) 学会活動貢献賞表彰規程第 5 条の規定により、表彰委員会から推薦を受けた候補者について、2 月 6 日の授賞候補選考委員会で審議し、学会活動貢献賞授賞候補者 14 名を選考した。第 5 回理事会で、学会活動貢献賞受賞者として 14 名を決定した。

ｳ. 表彰委員会会議
表彰委員会会議を 4 月 5 日、7 月 27 日に開催した。

ｴ. 受賞者の活動の成果を社会に還元できるよう、各委員会が受賞者を講師等として企画を実施する場合の招聘費用を補助するため、各委員会に各賞授賞者招聘費用補助制度の申請を募集した。その結果、2023 年度交付分の申請はなかった。

(5) 研修講座の実施（所掌：執行役員・常任理事会）
宮地裕基金人材育成研修講座事業の募集により採択された以下の講座に対して、経費支援を行った。

ｱ. 「地域の日本語学習支援・指導者のための IT スキル基礎講座」(6 月 10 日、6 月 24 日、7 月 8 日、7 月 22 日、8 月 5 日、8 月 19 日)。参加者数 19 名。

ｲ. 「日本語教育関係者向けヒューマンライブラリー開催者研修」(7 月 29 日、7 月 30 日、8 月 5 日)。参加者数 14 名。

ｳ. 「地域の外国人就労者に対するやさしい日本語を用いた学習支援のための研修会」(3 月 2 日)。参加者数 39 名。

2. 調査研究

(1) 学会誌事業（所掌：学会誌委員会）

ｱ. 学会誌『日本語教育』（電子版・冊子版）の発行（所掌：学会誌委員会）
本年度刊行済み学会誌は以下のとおりである。

(ｱ) 184 号：4 月 25 日発行。寄稿論文 5 編、研究論文 2 編、調査報告 2 編。147 頁。

(ｲ) 185 号：8 月 25 日発行。寄稿論文 1 編、研究論文 6 編、調査報告 2 編、実践報告 1 編。156 頁。

(ｳ) 186 号：2023 年 12 月発行。研究論文 1 編、調査報告 1 編、実践報告 1 編。49 頁。

(ｴ) 187 号：2024 年 4 月発行に向けた準備を進めた。

(ｵ) 188 号：2024 年 8 月発行に向けた準備を進めた。

ｲ. 2021 年度発行の学会誌『日本語教育』掲載論文を J-Stage で公開した。

ｳ. 2007 年度以前に発行の学会誌『日本語教育』掲載論文を J-Stage で公開するための許諾手続きを進めた。

ｴ. 2022 年度『日本語教育』論文賞受賞論文の概要紹介（英語版）をウェブサイトで公開した。

ｵ. 2023 年 6 月 12 日に査読者意見交換会をオンラインで開催した。参加者数 75 名。

ｶ. ウェブサイトの「学会誌掲載論文一覧」に、論文の英語情報（著者・論文名については 1 号から、キーワードについては英文を掲出するようになった 180 号以降）を搭載した。

ｷ. 学会誌委員会会議
学会誌委員会会議を 6 月 25 日、7 月 1 日、11 月 12 日、3 月 10 日に開催した。

(2) 調査研究推進事業（所掌：調査研究推進委員会）

ｱ. 春季大会で開催する一般公開プログラム「境界の外側から見える日本語教育学―異なる専門分野から見えてくるもの―」を企画・実施した。参加者数 441 名。

ｲ. 秋季大会会場で調査研究推進セミナー「実践研究のすすめ―社会的文脈を踏まえた教育実践を目指して―」を企画・実施した。参加者数 41 名。

ｳ. 日本語教育学会各事業の査読・審査等を行う審査・運営協力員 230 名体制の

補充・強化を図った。

ｴ. 2024年度春季大会で開催する一般公開プログラムの企画立案を開始した。

ｵ. 調査研究推進委員会会議
調査研究推進委員会会議を6月8日、8月30日、12月8日に開催した。

(3) 社会啓発事業（所掌：社会啓発委員会）

ｱ. 学会ウェブ、SNSにおいて、日本語教育に関する幅広い調査・研究情報の提供を行う。（今年度は実施しなかった。）

ｲ. 動画配信事業NKG TV「シリーズこれからの日本語教育人材の養成を考える」第1回「これからの日本語教師の専門性を考える」を配信した。

ｳ. 「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」の公布について情報を提供した。

ｴ. 日本語教育推進議員連盟第18回及び19回総会資料を公開した。

ｵ. 寄附金の決済サービス業者について予定していた業者がサービスを中止したため、別業者の情報を収集し、契約準備を進めている。

ｶ. 秋季大会において一般公開プログラム「外国人技能実習制度に求められる日本語教育～誰のため？何のため？～」を開催した。参加者数は約300名。

ｷ. 社会啓発委員会会議を、4月27日、6月20日、3月7日に開催した。

(4) 受託事業（所掌：各特別委員会）

ｱ. 文化庁委託事業「現職日本語教師研修プログラム普及事業」【初任】【中堅】（所掌：文化庁委託事業特別委員会）について申請に基づき事業を行った。

ｲ. 2022年度に受託した文化庁委託事業「「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業」（所掌：文化庁委託事業特別委員会）について、2年目を迎える2023年度も継続して申請に基づき事業を行った。

ｳ. 公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施している BJT ビジネス日本語能力テスト事業に関し、同協会からの事業の委託を受け、テストモニターおよび調査研究業務を行った（所掌：BJT ビジネス日本語能力テスト特別委員会）。

(5) 受託事業成果活用（所掌：文部科学省委託事業成果活用特別委員会）
本会が受託した文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の受託業務は終了したが、本会の研究・教育実践の発展及び社会的貢献のために公開している同事業の資料や実践成果の管理を行った。

(6) 「日本語教育学の構造化」の成果の運用（会長・執行役員所掌）
公開シンポジウム「日本語教育学会の社会的使命を再考する―学術的貢献と社会的役割―」（4月22日）において、「日本語教育学の構造化」の報告を行った。

3. 情報交流事業

(1) 広報事業（所掌：広報委員会）

ｱ. ウェブサイトの管理・運営
2022年度に改修したウェブサイトを引き続き運営している。多様なユーザーに対しそれぞれのニーズにあったコンテンツを提供するよう、コンテンツの充実をはかり、改修結果の検証を行う。（今年度は具体的な検証はしなかった。）

ｲ. 各委員会と連携し、学会ウェブサイト、学会メールマガジン、X、

facebook、Youtube を有効活用した広報活動を展開している。

ｳ. 学会パンフレットについては引き続き検討事項とする。（今年度は具体的な活動はしなかった。）

4. 連携推進事業

(1) 国際連携事業（所掌：国際連携委員会）

ｱ. 世界 12 か国・地域の学会で構成する「日本語教育グローバル・ネットワーク（GN）」事務局としての役割を引き続き担い、GN の活動を推進した。

ｲ. GN プロジェクト「グローバルにつながるオンライン日本語教育シリーズ」の実施を促進し協力した。国際連携委員会主催のイベント開催については GN 代表者会議において、引き続き協議し、3 月 23 日に「世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会」を行った。

ｳ. GN ウェブサイトの管理・運営を行った。

ｴ. ウェブサイトコンテンツ「海外コラム」、「世界の日本語教育」の掲載を行った。

ｵ. 「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」を実施した。

(ｱ) 2023 年度は当初の募集で 3 名が採択され、そののち追加募集を実施し最終的に 11 名が採択された。

(ｲ) 2024 年度「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」の募集を開始した。

ｶ. 2024 年に米国で実施する「日本語教育国際研究大会　米国・カナダ」の開催準備に協力するともとに、2025 年度以降の「日本語教育国際研究大会」の実施について、GN 代表者会議において引き続き協議した。助成金の申請を一般社団法人尚友倶楽部に主催者にかわり申請を行い、満額承認を得た。

ｷ. 国際連携委員会会議

国際連携委員会会議を 4 月 13 日、6 月 6 日、8 月 1 日、9 月 22 日、12 月 21 日に開催した。

(2) 連携協力事業（所掌：執行部・連携協力委員会）

ｱ. 言語系学会連合

言語系学会連合（加盟 39 学会）の活動に幹事学会として参加し協力している。2023 年度は事務局担当学会として、2024 年 2 月 10 日（土）に公開シンポジウム「言語教育における生成系 AI の活用」をオンラインで開催した。参加者数は約 330 名。

ｲ. Net-J

Net-J（当学会他 6 研究会が加盟）の活動に参加協力し、互いの情報交流や情報共有、連携を推進している。また、春季大会で「Net-J 研究会紹介ブース」を設置し、参加した各加盟団体による説明会等を実施した。

ｳ. 日本語教育関係機関・団体との協力

次の事業に対し、要請により後援を行った。

(ｱ) 「2023 日本留学・就職地域観光フェア in Taipei」（一般社団法人外国人留学生高等教育協会）《実施日》2023 年 7 月 29 日～30 日

(ｲ) 「第 24 回長安杯 中国大学生日本語プレゼンテーション大会」（NPO 法人環境研究と教育国際交流協会）《実施日》2023 年 11 月 4 日

(ｳ) 「日本語用論学会第 26 回大会」（日本語用論学会）《実施日》2023 年 12 月 9 日～10 日

(ｴ) 第 34 回第二言語習得研究会全国大会（第二言語習得研究会）《実施日》2023 年 12 月 9 日～2023 年 12 月 10 日

(ｵ) 第 21 回全養協公開講座「いよいよ始動 日本語教育機関認定法！！～これからの日本語教員養成・研修とは？～」（全国日本語教師養成協議会）《実施日》2024 年 1 月 27 日
(ｶ) 第 36 回全国専門学校　日本語学習外国人留学生日本語弁論大会（全国専門学校日本語教育協会）《実施日》2024 年 2 月 6 日
(ｷ) 言語教育史研究の過去・現在・未来：日本語教育史研究会 30 周年記念シンポジウム（日本語教育史研究会）《実施日》2024 年 3 月 2 日
(ｸ) 2023 日本留学・就職（技術・人文知識・国際業務・介護・特定技能）フェア in Indonesia（一般社団法人外国人留学生高等教育協会）《実施日》2024 年 7 月 29 日～30 日
(ｹ) 令和 6 年度日本語教育能力検定試験（公益財団法人日本国際教育支援協会）《実施日》2024 年 10 月 27 日
(ｺ) 2024 年度 BJT ビジネス日本語能力テスト（公益財団法人日本漢字能力検定協会）《実施日》CBT 方式で原則として毎日

5. 会務運営
(1) 会員の状況
2024 年 3 月 31 日の会員数は下表のとおり。

会員種別	普通会員（個人）	普通会員（学生）	普通会員（団体）	賛助会員（個人）	賛助会員（団体）	名誉会員	計
国　内	2,948	163	84	8	51	1	3,255
海　外	256	3	2	0	1	0	262
計	3,204	166	86	8	52	1	3,517

(2) 代議員総会・理事会
1. 代議員総会の開催
通常総会（5 月 28 日にオンラインにより開催）
第 1 号議案　2022 年度事業報告及び決算報告の承認について
第 2 号議案　新理事・監事の承認について
〔報告事項〕
(1) 第二次中期計画 2021-2024 改定版について
(2) 2023 年度事業計画及び収支予算について
(3) 2022 年度各賞受賞者・受賞論文について
(4) 日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ報告書について

2. 代議員懇談会の開催
第 1 回（12 月 1 日にオンラインにより開催）
テーマ：日本語教育の制度化の動きを振り返り今後の学会の方向性を考える

第 2 回（3 月 12 日にオンラインにより開催）
テーマ：　第三次中期計画の策定及び今後の学会運営について

3. 理事会の開催
第 1 回理事会（5 月 7 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　第 11 回定時代議員総会の開催について
2　代表理事・業務執行理事の執行状況の報告について

3　2022 年度事業報告について
4　2022 年度決算報告について
5　研究倫理規程の改定について
6　2023 年度授賞候補選考委員会委員候補者の選出（理事枠・代議員枠以外）
7　学会賞・奨励賞・功労賞表彰規程の改定について
8　『日本語教育』論文賞表彰規程の改定について
9　大修館書店の出版企画への監修について
〔報告事項〕
1　常置委員会委員の退任について
2　支部活動委員会委員の次期委員の取消について
3　審査・運営協力員制度設置運営要領の制定について
4　次期理事・監事候補者について
5　第 6 回代議員選挙立候補公報について
6　オンラインストレージ（Google ドライブ）の準備について

第 2 回理事会（5 月 28 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　議長選出
2　代表理事の選定

第 3 回理事会（7 月 2 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　代表理事・業務執行理事の職務権限細則（別表）の改定について
2　理事の事業等担当要領（別表）の改定について
3　社会啓発委員会委員の追加選出について
4　連携協力委員会委員の追加選出について
5　2023 年度授賞候補選考委員会委員候補者（理事枠・代議員枠）および委員予備者の選出について
6　2023 年度春季大会 大会若手優秀発表賞授賞候補者について
7　2023 年度秋季大会昼休み説明会使用申請について
8　2023 年度秋季大会一般公開プログラムの予算について
〔報告事項〕
1　2023 年度春季大会概況について
2　研究倫理検討部会発足について
3　今後の理事会・常任理事会の開催日程について
4　オンラインストレージ（Google ドライブ）について
5　2024 年度日本語教育国際研究大会について（尚友倶楽部往訪報告）
6　国際交流基金賞 50 周年記念メッセージ発出について
7　国立国語研究所から本学会に対する推薦依頼（サポートレター）について
8　後援名義使用申請について

第 4 回理事会（12 月 24 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　第三次中期計画の策定スケジュールについて
2　役員保険について
〔報告事項〕

1　2023 年度秋季大会概況について
2　2024 年度春季大会発表募集テーマについて
3　2024 年度春季大会一般公開プログラムについて
4　2024 年度秋季大会一般公開プログラムについて
5　2024 年度日本語教育グローバル人材奨励プログラムについて
6　グローバル人材奨励プログラムの説明会イベントの実施と複数年分の申請について
7　2024 年度以降の「ぷらさ da わかば」の参加費設定について
8　宮地裕基金人材育成研修講座の採択者のためのオンライン交流会の実施について
9　2023 年度中間事業報告と予算執行状況報告について
10　「賛助会員の集い」の開催日程について
11　2023 年度代議員懇談会の報告について

第 5 回理事会（3 月 17 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　第 12 回定時代議員総会議事日程案について
2　代表理事・業務執行理事の執行状況の報告について
3　2024 年度重点項目・事業計画・予算について
4　2024 年度宮地裕基金人材育成研修講座の応募選考について
5　委託事業検討特別委員会の設置について
6　文化庁委託事業特別委員会の終了と設置運営規程の廃止について
7　旅費規程の改定について
8　2023 年度各賞授賞候補について
9　2024 年度 BJT ビジネス日本語能力テスト業務の受託について
10　BJT ビジネス日本語能力テスト特別委員会設置運営規程の改定および委員候補について
〔報告事項〕
1　各委員会等からの報告について
2　今後の大会計画について
3　『日本語教育』188 号（2024 年 8 月 25 日刊行）の寄稿について
4　『日本語教育』190 号（2025 年 4 月 25 日刊行）の特集について
5　2024 年度春季大会一般公開プログラムについて
6　令和 6 年度文化庁委託事業の申請について
7　賛助会員の集いについて
8　2024 年度実施の第二次中期計画評価方針および評価員選任について
9　2024 年度理事会・常任理事会の開催日程について

第 1 回決議の省略（6 月 14 日可決）
〔決議事項〕
1　副会長（業務執行理事）の承認
2　常任理事の承認

第 2 回決議の省略（9 月 21 日可決）
〔決議事項〕
1　コンプライアンス担当理事の承認

第 3 回決議の省略（2 月 16 日可決）

〔決議事項〕
1　2023 年度秋季大会 大会若手優秀発表賞授賞者の承認

4.　常任理事会の開催

第 1 回常任理事会（4 月 23 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2022 度第 9 回常任理事会議事録案について
2　2023 年度第 1 回理事会議事日程案について
3　第 11 回定時代議員総会の開催について
4　代表理事・業務執行理事の執行状況の報告について
5　2022 年度事業報告について
6　2022 年度決算報告について
7　研究倫理規程の改定について
8　審査・運営協力員制度設置運営要領の制定について
9　2023 年度授賞候補選考委員会委員候補者の選出（理事枠・代議員枠以外）について
10　学会賞・奨励賞・功労賞表彰規程の改定について
11　『日本語教育』論文賞表彰規程の改定について
12　後援名義使用申請について
〔報告事項〕
1　常置委員会委員の退任について
2　支部活動委員会委員の次期委員の取消について
3　次期理事・監事候補者の内諾状況について
4　第 6 回代議員選挙立候補者について
5　オンラインストレージ（Google ドライブ）の準備について

第 2 回常任理事会（7 月 30 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2023 度第 1 回常任理事会議事録案について
2　2026（または 2027）年開催の日本語教育国際研究大会について
3　新規文化庁委託事業について
4　理事会・常任理事会における議事の提案等にかかわる要領について
5　秋季大会一般公開プログラムの予算について
〔報告事項〕
1　2023 年度『日本語教育』査読者意見交換会について
2　後援名義使用申請について
3　奥田純子ゆめ基金(日本語学校留学生奨学金支給事業)協賛について
4　非常勤職員の雇用について

第 3 回常任理事会（9 月 23 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2023 度第 2 回常任理事会議事録案について
2　2023 年度秋季大会大会若手優秀発表賞選考部会員の指名について
3　2023 年度秋季大会懇親会について
4　2024 年度秋季大会開催地および日程について
5　2024 度度春季大会一般公開プログラム企画案について
〔報告事項〕
1　2024 年度春季大会発表募集テーマについて

2　研究倫理検討部会の部会員について
3　2023 年度代議員懇談会の開催日程について
4　コンプライアンス・ワーキンググループの設置について
5　文化庁のパブリックコメント説明会の概況について
6　新規文化庁委託事業について

第 4 回常任理事会（10 月 22 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2023 度第 3 回常任理事会議事録案について
2　2023 年度代議員懇談会の実施要領について
3　2024 年度秋季大会一般公開プログラム企画案について
4　2024 年度宮地裕基金人材育成研修講座の応募要領案について
5　次年度日本語教育グローバル人材奨励プログラムについて
〔報告事項〕
1　2023 年度秋季大会調査研究推進セミナーについて
2　2024 度度春季大会一般公開プログラム企画について
3　コンプライアンス研修について

第 5 回常任理事会（11 月 19 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2023 度第 4 回常任理事会議事録案について
2　2023 年度『日本語教育』論文賞選考部会員の指名について
3　2024 年度以降の「ぷらさ da わかば」の参加費設定について
4　宮地裕基金人材育成研修講座の採択者のためのオンライン交流会の実施について
〔報告事項〕
1　「賛助会員の集い」の開催日程について
2　2023 年度代議員懇談会の進行について
3　後援名義使用申請の承認について
4　尚友倶楽部訪問について
5　令和 5 年秋の叙勲について

第 6 回常任理事会（12 月 10 日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2023 年度第 5 回常任理事会議事録案について
2　2023 年度第 4 回理事会議事日程案について
3　第三次中期計画の策定スケジュールについて
4　役員保険について
5　2024 年度春季大会昼休み説明会使用申請について
6　グローバル人材奨励プログラムの説明会イベントの実施と複数年分の申請について
〔報告事項〕
1　2023 年度秋季大会概況について
2　GN 代表者会議の報告について
3　2023 年度中間事業報告と予算執行状況報告について
4　文化庁との意見交換会について

第 7 回常任理事会（1 月 21 日にオンラインにより開催）

〔決議事項〕
1　2023年度第7回常任理事会議事録案について
2　2024年度事業計画・予算について
3　2023年度秋季大会 大会若手優秀発表賞授賞候補者について
4　NKG TVの動画作成に関するフローについて
5　令和6年能登半島地震に対する支援活動について
〔報告事項〕
1　『日本語教育』188号（2024年8月25日刊行）の寄稿について
2　令和6年度文化庁委託事業の申請について
3　文化庁委託事業日本語教育の参照枠（生活分野）の研修をめぐって
4　2024年度春季大会一般公開プログラムの広報について
5　2023年度代議員懇談会（第2回）の実施要領について
6　後援名義使用申請の承認について

第8回常任理事会（2月18日にオンラインにより開催）
〔決議事項〕
1　2023年度第7回常任理事会議事録案について
2　2023年度第5回理事会議事日程案について
3　第12回定時代議員総会議事日程案について
4　2024年度重点項目・事業計画・予算について
5　2024年度実施の第二次中期計画評価方針および評価員選任について
6　就業規則等の改定および設置について
7　委託事業特別委員会について
8　2023年度各賞授賞候補について
9　2024年度宮地裕基金人材育成研修講座の応募選考について
10　2024年度春季大会 大会若手優秀発表賞部会員の指名について
〔報告事項〕
1　ICJLEの開催について

(3) 公益法人としての手続きおよび体制の整備
公益法人として求められる所要の報告とともに、体制の整備（関係規程を含む）を進める。
(4) 横断的事業の検討
全委員長会議を3回ほど開催するところ、第1回全委員長会議を7月30日に開催した。
(5) 公開シンポジウム「日本語教育学会の社会的使命を再考する―学術的貢献と社会的役割―」（4月22日）を開催した。参加者数は第1部250名、第2部230名。

以上